令和　２　年　度　　学　校　総　合　評　価

６　今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、意欲的な学習を通して、自らの進路を切り拓いていく力を育てるとともに、学校行事や部活動を通して、豊かな人間性を育むことが本校の課題である。しかし、世界規模での新型コロナウイルス感染症の拡大により、4 月から 5 月に一斉休校を行ったため、授業時間と質の確保を第一目標とした。

また、ＳＳＨ事業の実施においては、2 期目を迎え、理数教育のさらなる充実を目指し、理数科学科の生徒だけではなく、人文社会科学科、普通科を含む生徒全員に対して「探究力」「科学的思考力」「自己発信力」を育成することが課題である。これを受け、今年度の具体的重点目標として５分野９項目の目標を掲げた。

「学力の向上」では、1 学期における 2 ヶ月間の休校中にオンライン配信による授業動画や課題の配布と添削を行うことで、生徒の学習意欲の維持を図ることができた。また、1 学期を 7 月末日まで延ばすことで、例年の授業進度まで戻すことができた。テストの見直しにおいては、アンケートにより各種テストを見直す意識が強くなった生徒は 86%と目標に達したが、できなかった分野の復習を学習計画に取り入れている生徒は 70%にとどまった。しかし、3 年生において校内模試後の解説授業がためになっていると感じている生徒は 94%おり、学習活動の PDCA サイクルが確立されてきた生徒も多い。

「進路意識の高揚と進路希望の実現」では、大学探訪を行うことができなかったが、2 年生は、オンラインで東京大学の学生と相互配信を行った。生徒の満足感は、99%であった。１年生の進路講演会は例年と同じ 15 分科会で行うことができ、満足度は 95%であった。進路希望の実現では、難関 10 大学と国公立医学部に出願した生徒は 51%であった。第 1 志望をあきらめず、難関大学への進学を目指す意識が高くなってきている。

「読書指導・体力の向上」では、図書館利用を促す広報刊行物の年間発行回数は 12 回以上の目標を掲げたが 30 回を超えた。ホームルームで実施する読書の時間も 1・2 年生の目標 12 時間に対し 14 時間を達成した。必読の時間を設定するこで読書の習慣のきっかけとなった。体力の向上においては、77%の生徒が 2 年次で持久力の自己最高記録を更新した。生徒は、サーキットトレーニングを継続したことで効果が上がったことを自覚できた。

「学校行事・部活動の充実」では、感染対策を取りながら、制限のある中でも、体育大会や部活動（3 年生対象）の満足度はいずれも 100%に近かった。今後も感染予防をとりながら生徒のモチベーションが下がらないように続けていく。

「探究力・科学的思考力・自己発信力の育成」では、今年度、SSH 事業における実習を伴う行事をたくさん中止したが、できる限り開催した。課題研究を探究活動と発表を 2 種類のルーブリックを使って評価したが、レベル 3 に達成した生徒の割合が目標の 80%を下回り 75%であった。アメリカ研修やオーストラリア研修、中国東北育才学校訪問等の海外研修は実施できなかった。

今後とも、生徒・保護者・地域・社会の期待に応え「日本を代表する優れた人材の輩出校であり続ける」ために、「計画・実行・検証」の学校評価システムを確立し、充実した教育活動を展開していきたい。

７　次年度へ向けての課題と方策

ＳＳＨ事業が２期目となり、普通科においても探究的な学習活動を行い、課題研究を実践してきた。今後、生徒達の将来を見据え、自主的な学習指導や高い進路意識を持たせる指導についてもさらに検討を加えていきたい。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、海外研修を始め、数多くの活動を中止にしてきた。次年度に向けて、より教育的効果が得られるよう、代替えの活動を企画していくことが必要である。

今後も、生徒の学力向上を目ざすことはもちろん、学校行事や部活動の充実を継続して図り、健全な心身・優れた知性・豊かな情操を培い、民主的で自主性・創造性に満ちた人間の育成に努めていきたい。